

マスタープラン時の樹種選定経緯

- ・きらきら橋～曙橋区間のサクラ並木が美しい。
- ・地元からも、きらきら橋から下流の眺め（特にサクラ開花時）は美しいとの声があった。
- ・既存シダレヤナギは、当時の維持管理において強剪定による樹形の悪さがみられた。
- ・シダレヤナギの水際利用は風情ある風景を演出できるが、観光客目線で考えた場合、集客効果にはあまり貢献しないと考え（一般的に背景となってしまう意識されにくい）、より集客効果があり、季節感を演出できるソメイヨシノとすることを提案した（上流の既存ソメイヨシノの連続性を高め、より魅力を上げる）。



2016年4月25日撮影 曙橋下流
写真左にシダレヤナギの強剪定が確認できる。



2016年4月25日撮影 曙橋上流
写真右にシダレヤナギの強剪定が確認できる。
写真左のソメイヨシノは川面の遊歩道を覆うような枝張りとなり、散策する利用者に木陰を提供している。



マスタープラン時のパース

樹木と集客効果

- ① 大きさの魅力
 - ・巨木／圧倒的スケール 等
- ② 量の魅力
 - ・数の多さ／並木の長さ／面的な広がり 等
- ③ 珍しさの魅力
 - ・希少性／特異な色や形 等
- ④ いわれの魅力
 - ・歴史的人物のお手植え／特別な由緒や来歴／魅了する蘊蓄 等
- ⑤ 組み合わせの魅力
 - ・背景と樹木（例：雄大な山並みを背景とした1本のサクラ）／構図 等
- ⑥ その他

地元から「ヤナギを残したい」という声があるとの前回デザイン会議での話題をうけて、

◎集客による温泉街の活性化が地元への貢献につながる。

→観光客に大きな印象を与える樹木の選定と配置を考えた方が良いのではないか。

→観光客目線≧地元目線（地元軽視という考え方ではなく観光客をより重視するという考え）

◎シーズナリティは街全体で考える。

→年間を通しての魅力の平準化を図るには、短い路線長の道路や狭い広場だけで考えるのではなく、地域全体で四季の魅力をつくるのが大切ではないか。

◎植栽の魅力が一般的にどのように意識されているのかを考える。

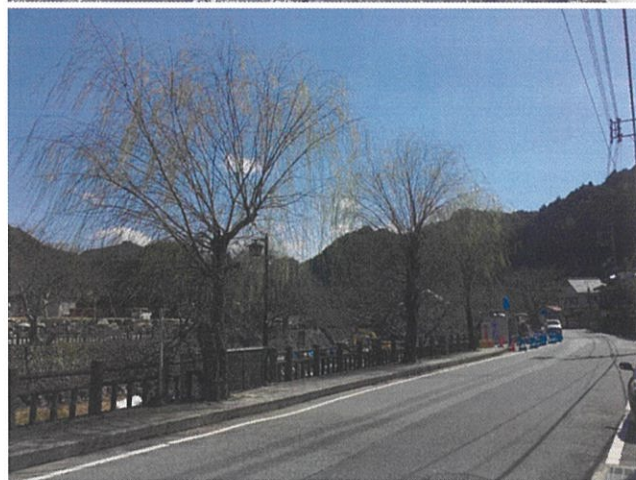
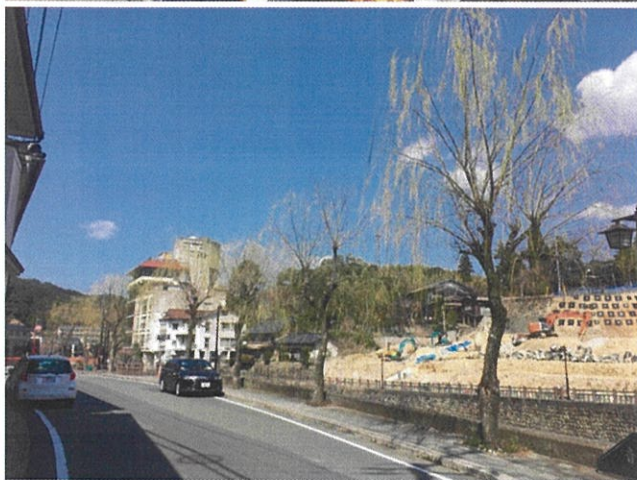
・ソメイヨシノ（あるいはジンダイアケボノ、コマツオトメなど）単一樹種の場合、シダレヤナギとソメイヨシノの混植、（交互植栽、1本だけヤナギを残す）の場合。

・シーズナリティといった観点で複数種の混植とした場合。

→全国には魅力的な植栽は多くあるが、集客効果として期待できる樹種は限られていないか。

→路線長や場の広がり限定される湯本地域では、複数種混植として魅力が低減することはないか。

また、沿道と沿川の街路樹であること、その他の意見もふまえて樹種決定について議論する。



左列：曙橋下流

右列：曙橋上流

